

第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果①

大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見
「まとめ」

■第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果①【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「まとめ」】

[テーマ]	[全 体]	[上流部]	[中流部]	[下流部]
A 松江の風情		(A-1)城下町の歴史を感じさせる佇まいを大切に[大谷] (A-2)城のまわりを中心に、江戸時代以降の歴史・文化を維持する[泉] (A-3)城下町の地図と重ねて、都市の全体像を理解して取り組もう[岸井] (A-4)城との関係を意識できるように[岸井] (A-5)松江開府400年の歴史を持つまちを残すべき[林] (A-6)松江夜曲に歌われるような大橋界隈の面影と風情を残してほしい[林] (A-7)上流左岸の雰囲気をできるだけ残す[木幡] (A-8)松江大橋の存在は非常に大きく、できれば現状のままであってほしい[皆美] (A-9)大橋は松江の象徴的な橋であるので、大事にしなければならない[大谷] (A-10)現在の大橋は松江の宝であり、残すべきである[林]		
B 歴史・文化・風土・生活	(B-1)生活と水の多様な関わりの保全[有光] (B-2)治水対策を行った上で、川との関係を1945年前後の姿に戻す[布野] (B-3)農業・漁業など生活と神事とのつながりが魅力であり、その関係を保全してほしい[有光] (B-4)出雲の神々のイメージ[桑子] (B-5)周囲の風土と一体化している神社・仏閣をできるだけ存続する[岸井] (B-6)神社と水辺の関係をふまえる[桑子] (B-7)須衛都久神社や賣布神社のように、かつて水に接していたところが、今は水から隔てられている。水と神社の関係を大切にしてほしい[有光] (B-8)歴史・文化に関する学習の場とする[飯野] (B-9)生活者だけでなく、来訪者にも風土・生活・信仰などが感じられるような地域であることが求められる[有光] (B-10)舟運の再生[有光] (B-11)地域の文化としてのホーランエンヤを大切に[有光] (B-12)如泥石をはじめ、伝統的な護岸のデザインを再現できないか[布野]	(B-13)松江の風情の大きな要素である神社・仏閣を大切にする[丸]		(B-14)宍道湖から中海までを一体的に考えたとき、多賀神社周辺の緑は大切なポイントであり、その空間を大切にするという意識を持つべき[岸井] (B-15)水辺に関わる産業としての舟倉や造船所があることが記憶として残るように[有光] (B-16)朝酌地区に「古代の市場」の案内機能が必要[有光]
C 自然・環境	(C-1)人工物をできるだけ排除し、環境との調和を図る[泉] (C-2)水質の向上[有光] (C-3)生態系の保全(特に中流)[有光] (C-4)自然環境が残っている地域を学習の場として活用を図る[飯野]		(C-3)生態系の保全[有光] (C-5)中州は貴重な湿地であり、維持・保全すべき[木村] (C-6)中州のビオトープ機能の向上[木村] (C-7)中州は環境教育の場としたい[岸井] (C-8)中州を植物・生物に関する学習の場として活用する[飯野] (C-9)中州は中心市街地に隣接した農地であり、環境学習の視点も含めて、エコ農法など新しい農業の展開の可能性を探ってはどうか[松本] (C-10)中州の水路を利用した生態系観察ルートを設定してはどうか[松本] (C-11)中の島を自然観察スポットとして整備し、環境教育に役立てる[門脇] (C-12)中の島の癒しの環境の保全[木幡] (C-13)中流右岸は河岸が直線的で生物多様性に欠けると思うので、生態系に配慮した変化のある河岸(エコトーン)にし、魚釣りや魚採りができるようにできないか[布野]	(C-14)下流部にヨシ・アシなどをもっと増やせば、生物の生息場所の確保や水質浄化、さらには環境教育にも役立つと思う[門脇] (C-15)多くの鳥類がいる河口付近を、自然に関する様々な学習の場として位置づけるとおもしろい[飯野]

[テーマ]	[全 体]	[上流部]	[中流部]	[下流部]
<p>D 景観・眺望</p>	<p>(D-1)広さ、ゆったりとした風景が必要[岸井] (D-2)恵まれた自然景観を残すことが大切[泉] (D-3)大山隠岐国立公園を意識し、大山までを含めた景観づくりが必要[島田] (D-4)東の大山と西の夕日という東西に広がった空間で松江を見る視点が重要なポイント[桑子] (D-5)常に見られる固定的な景観だけでなく“朝霧に浮かぶシジミ舟”“遠くに見える大山”などの季節的なものも含め、時折見られる風景への評価も必要[景観専門委員会] (D-6)相手(船や対岸)を見る・相手から見られるという意識を持ち合うことが、風景をもっと良くするためには必要[岸井] (D-7)大橋川全体を景観法の景観形成地域に指定してはどうか[布野] (D-8)松江城、大山、嵩山などが見える視点場を設定した上で、景観法による景観規制を検討する[布野] (D-9)船からの景観による景観規制[布野] (D-10)この際、川沿いからなくしたいものを消す[岸井] (D-11)松江は水際に風情があるので、そこをコンクリートで断ち切ると風情のない空間になってしまう[桑子] (D-12)ホーランエンヤは大橋川を一体化する伝統行事であり、このホーランエンヤを楽しめるような河岸と景観であってほしい[布野]</p>	<p>(D-13)橋と建物が調和した整備を考える[有光] (D-14)治水計画を推進する前提として、街全体の景観に配慮することが必要ではないか[泉] (D-15)親水性と同時に、眺望も含めた大橋川周辺の景観に関して、もっと景観法などの法的規制をかけて保全すべきではないか[泉] (D-16)まちづくりに景観法を活用するとよい[泉] (D-17)どこからでも松江城が見える町であってほしい[皆美] (D-18)河岸から2ブロック下がっても水辺が見えるように[木村] (D-19)観光地としての評価が高まるような橋、堤防、道路の景観づくりが重要[太田] (D-20)見られる・見られていることを意識した店づくり、商店街づくり、街並みづくり[飯野] (D-21)大橋は歩道を広くすることによって橋の幅を広げ、橋の中央部では更に広い歩道とするような特徴ある橋にできないか[太田] (D-22)大橋は南北を歩いて渡る楽しみのため歩道を拡幅し、郷愁のある擬宝珠高欄は残す[丸] (D-23)大橋のデザインを国際コンペで決めてはどうか[布野] (D-24)新大橋は、松江に合ったデザインを考える必要がある[木村] (D-25)新大橋は風格のあるデザインとし、橋詰めを整備する[島田] (D-26)船からの視点にも配慮した橋のデザインが必要である[有光] (D-27)下から見上げても美しい橋にする[木村] (D-28)ラフカディオハーンの見た風景という視点での景観づくり[景観専門委員会] (D-29)川沿いの景観を大切にしたい[木幡] (D-30)堤防の護岸は石積みが景観上良い[太田] (D-31)濠(堀川)と一体の護岸デザイン[布野] (D-32)上流右岸は鴨川の左岸のような形状で景観に配慮した護岸が望ましい[泉]</p>	<p>(D-33)中州の水郷風景の保全[有光]</p>	<p>(D-34)意宇川や茶臼山などの古代景観のすばらしさをもっと認識すべき[桑子] (D-35)風土記に思いを馳せる景観の保持[飯野] (D-36)矢田の渡し 出雲国風土記[景観専門委員会] (D-37)矢田の渡し周辺は風土記に描かれた景観を意識して整備し、渡し船を観光船に利用してはどうか[布野] (D-38)赤瓦の集落が移転でなくなるのは残念[有光]</p>
<p>E 水辺・水面・親水性</p>	<p>(E-1)水辺の美しさを大事にする[大谷] (E-2)水辺の近さを大事にする[大谷] (E-3)目線と水面高が近い点[木村] (E-4)街と水辺の一体感[木村] (E-5)水面との近い関係を保持する[有光] (E-6)人が寄り合う場所では、それぞれが居心地のいい空間を確保できるよう設計する[有光] (E-7)水辺は「演出」＝「ストーリー性」＝「らしさ」が重要なポイントとなる[飯野] (E-8)水質を良くし、水辺からは常に水底が見えるようにする[有光] (E-9)まちと水辺の一体感を重視して親水性を求める場所と、遊歩道や公園などの憩いの場とを区分けして整備をする必要がある[木村・後藤] (E-10)歩行者中心の親水空間を創出する[木村] (E-11)耐水性と親水性を上手に調和させた街づくり[宇田] (E-12)柵・手摺に頼らず、自然な形で河岸の安全を保持する[有光] (E-13)水際にむやみに柵を設けない[吉田] (E-14)河岸はできる限りゆるやかでやわらかい形としたい[有光] (E-15)河岸には緑(植物)を入れる[吉田] (E-16)水辺の緑は単一的な植栽ではなく、高木・低木などさまざまな緑を複合的に取り入れる[有光] (E-17)水辺に降りられる階段を設ける[吉田] (E-18)水の音を新たに創出することを考えてはどうか[有光・木村] (E-19)音が創出される工夫をする[布野] (E-20)ある時は右に、ある時は左に流れる不思議な川の特性を大事にしたい[布野]</p>	<p>(E-21)灯籠流しに代表されるような、生活・信仰と水・川との密接な関係を断ち切らないでほしい[有光] (E-22)寺町と水辺の関係を密にしたい[岸井] (E-23)上流の河岸にふさわしい木は柳なのか松なのか[桑子] (E-24)大橋～新大橋間の右岸に桜と柳を植える[門脇]</p>	<p>(E-25)中・下流部には桜・柳・ナンジャモンジャなどの並木をつくり、新しい景観をつくりたい[木幡]</p>	<p>(E-25)中・下流部には桜・柳・ナンジャモンジャなどの並木をつくり、新しい景観をつくりたい[木幡]</p>
<p>F 川沿いの遊歩道 憩いの場にぎわい空間</p>	<p>(F-1)水辺をできるだけ歩ける空間にする[岸井] (F-2)リバーウォークができる歩道づくり[飯野] (F-3)遊歩道を水面近くに設ける[吉田] (F-4)住民が水と親しむ憩いの場の整備[飯野] (F-5)滞留できる場の演出を考える[岸井] (F-6)多目的に利用できる川原の整備[有光] (F-7)護岸や遊歩道は単調にならないように工夫する[吉田] (F-8)河道内遊歩道の舗装を工夫する[木村] (F-9)下流域から上流域までをつなぐサイクリングロードを作る[松本] (F-10)施設(ハード)を考える上では、人が集まるような仕掛け(ソフト)を創る必要がある[後藤] (F-11)木陰などの緑が少ないエリアは人の集まり、賑わいにつながらない[飯野] (F-12)公衆トイレをとこところに設置すること[木幡]</p>	<p>(F-13)まちの中に緑が少なく、また、庭園のような公園が多いので、松にこだわらず、木陰で憩える場を作ってほしい[木幡] (F-14)改修を契機に、神社・仏閣の多い場所に伝統産業であるお茶・お菓子屋を集積し、大橋から新大橋付近を観光客や市民が回遊できるようにして、活性化を図りたい[門脇] (F-15)若者が集う水辺のイベントスペース、野外ステージなどのにぎわい空間の整備[木村] (F-16)人々がふれ合えるような舟溜まりの整備[有光] (F-17)河岸は人優先の道路とすべき[木村] (F-18)そぞろ歩きのできる遊歩空間を作る[木幡] (F-19)橋の下をくぐる遊歩道がほしい[木村] (F-20)橋詰め広場の整備[岸井] (F-21)大橋～新大橋間に人々が水に親しめる回遊歩道を整備[太田] (F-22)アンケートでは柳並木は好きな場所として上がっている[景観専門委員会] (F-23)上流左岸の川沿いに遊歩道をつくる[島田] (F-24)上流左岸は堂島川の難波橋付近を、右岸は鴨川の遊歩道を参考にする[太田] (F-25)上流右岸は自動車の通行を禁止するとともに植栽、石垣を工夫する[島田] (F-26)くにびき大橋から中の島に下りられる道の整備[木村]</p>	<p>(F-27)中州は、ニューヨークのセントラルパークのような広大な森林公園としたい[丸] (F-28)中州の川沿いに遊歩道を整備[島田] (F-29)中州の川沿いにジョギングができるような遊歩道を整備[太田] (F-30)美しい景観を気軽に楽しめるサイクリングロードの整備[木村]</p>	<p>(F-30)美しい景観を気軽に楽しめるサイクリングロードの整備[木村] (F-31)下流左岸に、川沿いの遊歩道を整備[島田] (F-32)下流域から島根半島全体を見据えたサイクリングロードの整備をしたらどうか[島田]</p>

[テーマ]	[全 体]	[上流部]	[中流部]	[下流部]
G 川で楽しむ	(G-1)かつてのように泳ぎたい、釣りをしたい[布野] (G-2)カヌー・レガッタ・ボートが楽しめる川[有光] (G-3)ボート部の練習が見たい[布野]	(G-4)市民・観光客が宍道湖に入ってシジミ取りができるような企画を考えてはどうか[門脇]	(G-5)水上スポーツが楽しめるよう整備する(剣先川)[太田]	
H 治水	(H-1)浸水を許容できるまちづくりの方法を研究してはどうか[有光] (H-2)揖保川には地域防災としての「量提」がある[布野]	(H-3)治水の工法としては鴨川のように洪水時だけ流れる低地帯を造ることで、大橋川の生態系が維持できるのではないか[泉] (H-4)左岸の宍道湖大橋から大橋までの間は、上流部の築堤に近い形の堤防にする[泉] (H-5)左岸の大橋から新大橋までの間は、河岸の道路は洪水時には冠水する低い護岸堤にする[泉] (H-6)左岸の新大橋からくにびき大橋までの間は、築堤する[泉] (H-7)世界に例のない斬新なデザインの堤防をハイテクを駆使してつくってはどうか[布野] (H-8)松江にマッチしたスーパー堤防を検討する[木村]	(H-9)中州をできるだけ治水に役立てる[岸井] (H-10)中州は遊水池としての機能を保全[有光]	(H-11)洪水時の水位を下げるためには、朝酌川合流点付近の川幅と水深が重要なポイントだと思う[泉]
I まちづくりと市民意識	(I-1)治水事業を契機に、松江の魅力を高めるためにこのまち全体がどうあるべきか市民全体で考える機会になればよい[後藤] (I-2)必ずしも市民全体が宍道湖・大橋川周辺の景観を重要視しているとは限らないと思う。今回の課題を市民意識の向上につなげることが大切[後藤] (I-3)宍道湖や大橋川の整備では、市民の意見を反映させ、本当に利用されるものを作ることが重要[後藤] (I-4)まちづくりのビジョンを持つべきである[飯野] (I-5)街並みに対する「哲学」と「ある種の合意」が重要[飯野] (I-6)長期的な展望に立ったまちづくりのゾーニングについて、市民合意を確立することが大切[泉] (I-7)計画づくりにはオープンな意見集約が必要[桑子] (I-8)計画づくりには若者・女性の参加が必要[桑子] (I-9)計画づくりには各年代層の意見集約が必要[飯野]			
J めざすべきまちのイメージ	(J-1)大橋川を、出雲から米子までのつながりを意識できるように一体の空間として扱う[岸井] (J-2)出雲～松江～米子を一体的にとらえ、多様なシナリオを描いた上で、そのシナリオにどう寄与できるかといった視点でまちづくりを考える[岸井] (J-3)米子空港からのアプローチから松江を見る[桑子] (J-4)宍道湖・中海全体を通したシナリオを考える上で、中海周辺地域の人たちの意見を聞きたい[岸井] (J-5)過去の歴史や文化を残すことも必要だが、新たな文化を創っていくことも必要[後藤] (J-6)古いものを大切にだけでなく、新しいものを加えて新しい歴史を作っていくという視点も大切である[島田] (J-7)国際文化観光都市にふさわしい特性と安らぎを備えた街づくり[宇田] (J-8)繊細さ、あいまいさ、余白などの松江の気質にあった節度のある整備が必要[有光] (J-9)現在ある歩行者と舟中、車中の人々が互いに認識できる距離感、スピード感を大切に[有光] (J-10)何もかも上流部でやろうとするのではなく、上・中・下流それぞれの特性をふまえ、バランスの取れた整備を考える必要がある[丸] (J-11)親水性の創出と洪水対策とは分けて考える[木幡] (J-12)日本一きれいな水の都とする[島田]	(J-13)五感で感じることのできるまち[後藤] (J-14)街区単位で考えたい[岸井] (J-15)上流部においては中心市街地として既存の商業集積や観光スポットの集積を活かしたまちづくりを進める[丸] (J-16)川に面した街づくり[木村] (J-17)城下町の魅力を活かす上でも、自動車交通を排除し、公共交通優先のまちづくりを行うことが重要[飯野] (J-18)大橋・新大橋の架け替えに伴う周辺商店街への経済的影響と工事後のまちづくりの展望を明確にしておく必要がある[皆美] (J-19)上流部左岸は背後地の東本町を含め、広域でとらえた街づくりをデザインした方がわかりやすい[木幡] (J-20)上流の橋北は松江城や堀川を中心とした古いものや文化的なものを尊重した整備が必要[丸] (J-21)上流の橋南は都市的発展にふさわしい整備が必要[丸] (J-22)上流右岸は新しいイメージにするのか古いイメージにするのか検討が必要[木幡] (J-23)松江城下へのエントランスポイント[岸井]	(J-24)中の島は可能であれば撤去し、広い水面として水上スポーツの世界大会、全国大会が開催できるようにし、観光と結びつけて地域活性化を図る[島田]	
K 交通		(K-1)大橋の南側に水上交通の基点を作ってほしい[皆美] (K-2)右岸側、新大橋～くにびき大橋間の船着場は、湊町リバープレイスのようなものが良いと思う[丸] (K-3)松江駅から北へ出た大橋川のところで白潟公園付近の舟溜まりの場所は水辺へのアプローチポイントとして、さらには水上交通の結節点として考える必要がある[岸井]	(K-4)第五大橋から松江の中心部に直接つながるハイウェイをつくる[丸] (K-5)中流右岸には道路が必要だと思う[太田]	
L 地域コミュニティ				(L-1)集団移転が必要な地区では、生活基盤の維持に配慮が必要[太田]

[上流部で出された意見の位置図]

- (A-1)城下町の歴史を感じさせる佇まいを大切に[大谷]
- (A-2)城のまわりを中心に、江戸時代以降の歴史・文化を維持する[泉]
- (A-3)城下町の地図と重ねて、都市の全体像を理解して取り組もう[岸井]
- (A-4)城との関係を意識できるように[岸井]
- (B-13)松江の風情の大きな要素である神社・仏閣を大切に[丸]
- (D-13)橋と建物が調和した整備を考える[有光]
- (D-14)治水計画を推進する前提として、街全体の景観に配慮することが必要ではないか[泉]
- (D-15)親水性と同時に、眺望も含めた大橋川周辺の景観に関して、もっと景観法などの法的規制をかけて保全すべきではないか[泉]
- (D-16)まちづくりに景観法を活用するとよい[泉]
- (D-17)どこからでも松江城が見えるまちであってほしい[皆美]
- (D-18)河岸から2ブロック下がっても水辺が見えるように[木村]
- (D-19)観光地としての評価が高まるような橋、堤防、道路の景観づくりが重要[太田]
- (D-20)見られる・見られていることを意識した店づくり、商店街づくり、街並みづくり[飯野]
- (F-13)まちの中に緑が少なく、また、庭園のような公園が多いので、松にこだわらず、木陰で憩える場所を作ってほしい[木幡]
- (J-13)五感で感じることのできるまち[後藤]
- (J-14)街区単位で考えたい[岸井]
- (J-15)上流部においては中心市街地として既存の商業集積や観光スポットの集積を活かしたまちづくりを進める[丸]
- (J-16)川に面した街づくり[木村]
- (J-17)城下町の魅力を活かす上でも、自動車交通を排除し、公共交通優先のまちづくりを行うことが重要[飯野]
- (J-18)大橋・新大橋の架け替えに伴う周辺商店街への経済的影響と工事後のまちづくりの展望を明確にしておく必要がある[皆美]

- (A-5)松江開府400年の歴史を持つまちを残すべき[林]
- (A-6)松江夜曲に歌われるような大橋界隈の面影と風情を残してほしい[林]
- (A-7)上流左岸の雰囲気できるだけ残す[木幡]

- (E-21)灯籠流しに代表されるような、生活・信仰と水・川との密接な関係を断ち切らないでほしい[有光]
- (G-4)市民・観光客が宍道湖に入ってジミ取りができるような企画を考えてはどうか[門脇]

- (H-3)治水の工法としては、鴨川のように洪水時だけ流れる低地帯を造ることで、大橋川の生態系が維持できるのではないかと[泉]
- (K-1)大橋の南側に水上交通の基点を作ってほしい[皆美]

- (K-3)白湯公園付近の舟溜まりの場所は水辺へのアプローチポイントとして、さらには水上交通の結節点として考える必要がある[岸井]

- (J-19)上流部左岸は背後地の東本町を含め、広域でとらえた街づくりをデザインした方がわかりやすい[木幡]
- (J-20)上流の橋北は松江城や堀川を中心とした古いものや文化的なものを尊重した整備が必要[丸]

- (H-4)左岸の宍道湖大橋から大橋までの間は、上流部の築堤に近い形の堤防にする[泉]

- (A-8)松江大橋の存在は非常に大きく、できれば現状のままであってほしい[皆美]
- (A-9)大橋は松江の象徴的な橋であるので大事にしなければならない[大谷]
- (A-10)現在の大橋は松江の宝であり、残すべきである[林]
- (D-21)大橋は歩道を広くすることによって橋の幅を広げ、橋の中央部では更に広い歩道とするような特徴ある橋にできないか[太田]
- (D-22)大橋は、南北を歩いて渡る楽しみのため歩道を拡幅し郷愁のある擬宝珠高欄を残す[丸]
- (D-23)大橋のデザインを国際コンペで決めてはどうか[布野]
- (D-26)船からの視点にも配慮した橋のデザインが必要である[有光]
- (D-27)下から見上げても美しい橋にする[木村]

- (F-21)大橋～新大橋間に人々が水に親しめる回遊歩道を整備[太田]
- (H-5)左岸の大橋から新大橋までの間は、河岸の道路は洪水時には冠水する低い護岸堤にする[泉]

- (F-22)アンケートでは柳並木は好きな場所として上がっている[景観専門委員会]

- (D-24)新大橋は松江に合ったデザインを考える必要がある[木村]
- (D-25)新大橋は風格のあるデザインとし、橋詰めを整備する[島田]
- (D-26)船からの視点にも配慮した橋のデザインが必要である[有光]
- (D-27)下から見上げても美しい橋にする[木村]

- (H-6)左岸の新大橋からくにびき大橋までの間は、築堤する[泉]

- (F-23)上流左岸の川沿いに遊歩道をつくる[島田]
- (F-24)上流左岸は堂島川の難波橋付近を参考に[太田]

- (D-29)川沿いの景観を大切に[木幡]
- (D-30)堤防の護岸は石積みが景観上良い[太田]
- (D-31)濠(堀川)と一体の護岸デザイン[布野]

- (E-23)上流の河岸にふさわしい木は柳なのか松なのか[桑子]
- (F-15)若者が集う水辺のイベントスペース、野外ステージなどのにぎわい空間の整備[木村]
- (F-16)人々がふれ合えるような舟溜りの整備[有光]
- (F-17)河岸は人優先の道路とすべき[木村]
- (F-18)そぞろ歩きのできる遊歩空間を作る[木幡]
- (H-7)世界に例のない斬新なデザインの堤防をハイテクを駆使してつくってほどうか[布野]
- (H-8)松江にマッチしたスーパー堤防を検討する[木村]

- (F-19)橋の下をくぐる遊歩道がほしい[木村]
- (F-20)橋詰め広場の整備[岸井]

- (F-26)くにびき大橋から中の島に下りられる道の整備[木村]

- (D-28)ラファディオハーンの見た風景という視点での景観づくり[景観専門委員会]

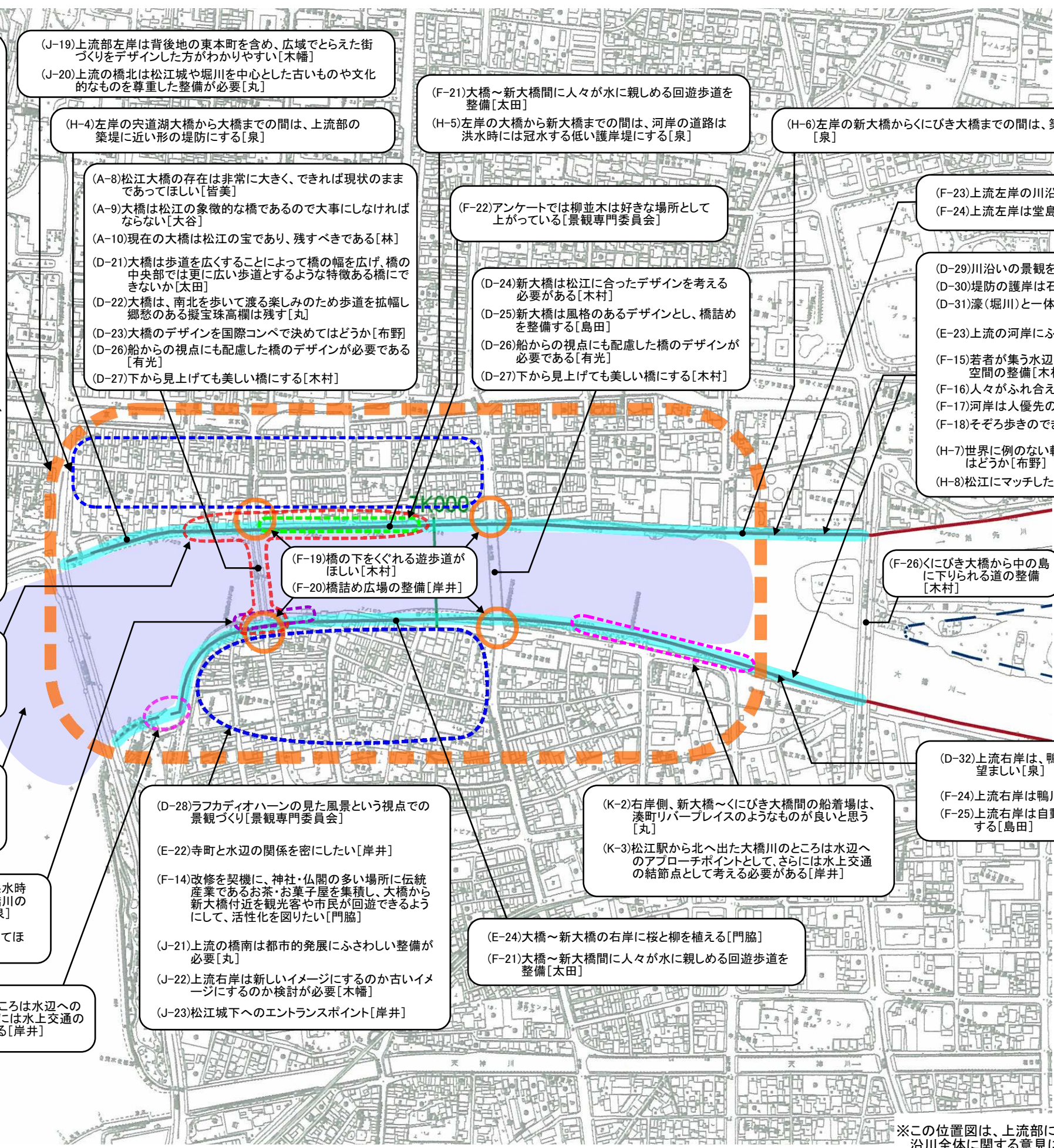
- (E-22)寺町と水辺の関係を密にしたい[岸井]
- (F-14)改修を契機に、神社・仏閣の多い場所に伝統産業であるお茶・お菓子屋を集積し、大橋から新大橋付近を観光客や市民が回遊できるようにして、活性化を図りたい[門脇]

- (J-21)上流の橋南は都市的発展にふさわしい整備が必要[丸]
- (J-22)上流右岸は新しいイメージにするのか古いイメージにするのか検討が必要[木幡]
- (J-23)松江城下へのエントランスポイント[岸井]

- (K-2)右岸側、新大橋～くにびき大橋間の船着場は、湊町リバープレイスのようなものが良いと思う[丸]
- (K-3)松江駅から北へ出た大橋川のところは水辺へのアプローチポイントとして、さらには水上交通の結節点として考える必要がある[岸井]

- (E-24)大橋～新大橋の右岸に桜と柳を植える[門脇]
- (F-21)大橋～新大橋間に人々が水に親しめる回遊歩道を整備[太田]

- (D-32)上流右岸は、鴨川の左岸のような形状で景観に配慮した護岸が望ましい[泉]
- (F-24)上流右岸は鴨川の遊歩道を参考に[太田]
- (F-25)上流右岸は自動車の通行を禁止するとともに植栽、石垣を工夫する[島田]



※この位置図は、上流部に関して出された意見を場所別に取りまとめたものです。沿川全体に関する意見については、P1～P3をご覧ください。

【中～下流部で出された意見の位置図】

- (C-3)生態系の保全[有光]
- (C-5)中州は貴重な湿地であり、維持・保全すべき[木村]
- (C-6)中州のビオトープ機能の向上[木村]
- (C-7)中州は環境教育の場としたい[岸井]
- (C-8)中州を植物・生物に関する学習の場として活用する[飯野]
- (C-9)中州は中心市街地に隣接した農地であり、環境学習の視点も含めて、エコ農法など新しい農業の展開の可能性を探ってはどうか[松本]
- (C-10)中州の水路を利用した生態系観察ルートを設定してはどうか[松本]

- (D-33)中州の水郷風景の保全[有光]
- (F-27)中州はニューヨークのセントラルパークのような広大な森林公園としたい[丸]
- (H-9)中州をできるだけ治水に役立てる[岸井]
- (H-10)中州は遊水池としての機能を保全[有光]
- (K-4)第五大橋から松江の中心部に直接つながるハイウェイをつくる[丸]

- (F-28)中州の川沿いに遊歩道を整備[島田]
- (F-29)中州の川沿いにジョギングができるような遊歩道を整備[太田]
- (F-30)美しい景観を気軽に楽しめるサイクリングロードの整備[木村]
- (F-31)下流左岸に川沿いの遊歩道を整備[島田]
- (F-32)下流域から島根半島全体を見据えたサイクリングロードの整備をしたらどうか[島田]

(G-5)水上スポーツなどが楽しめるよう整備する(剣先川)[太田]

(C-15)多くの鳥類がいる河口付近を、自然に関する様々な学習の場として位置付けるとおもしろい[飯野]

(B-14)宍道湖から中海までを一体的に考えたとき、多賀神社周辺の緑は大切なポイントであり、その空間を大切にするという意識を持つべき[岸井]

(D-38)赤瓦の集落が移転で無くなるのは残念[有光]
(L-1)集団移転が必要な地区では、生活基盤の維持に配慮が必要[太田]

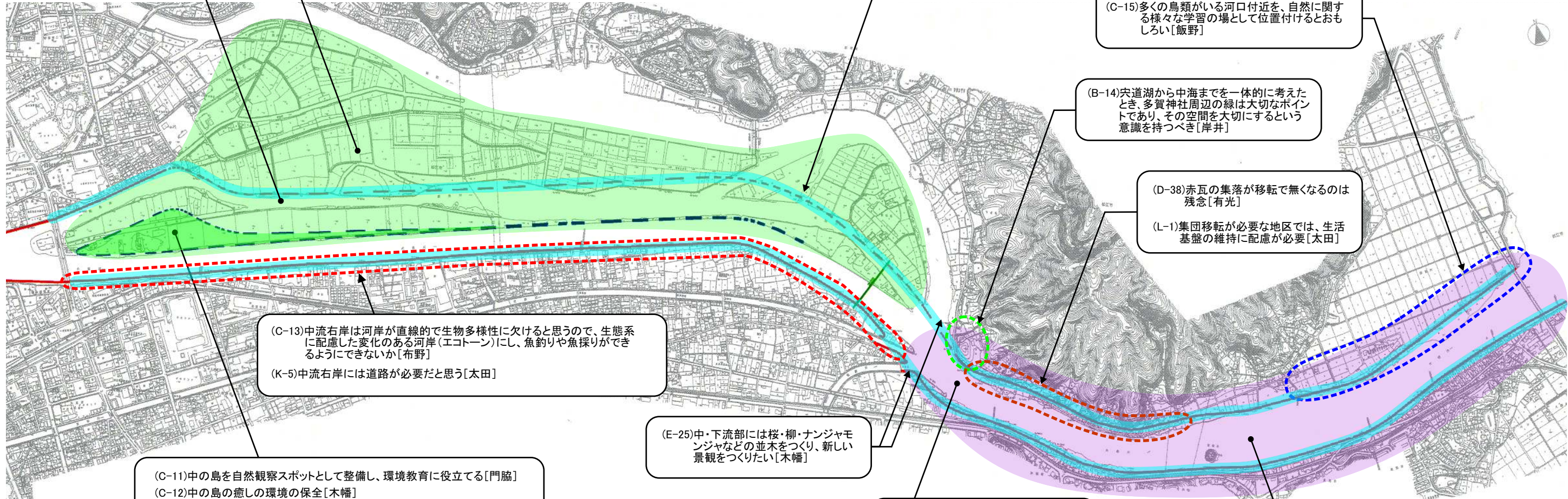
(C-13)中流右岸は河岸が直線的で生物多様性に欠けると思うので、生態系に配慮した変化のある河岸(エコトーン)にし、魚釣りや魚採りができるようにできないか[布野]
(K-5)中流右岸には道路が必要だと思う[太田]

(E-25)中・下流部には桜・柳・ナンジャモンジャなどの並木をつくり、新しい景観をつくりたい[木幡]

(H-11)洪水時の水位を下げるためには朝酌川合流点付近の川幅と水深が重要なポイントだと思う[泉]

(C-11)中の島を自然観察スポットとして整備し、環境教育に役立てる[門脇]
(C-12)中の島の癒しの環境の保全[木幡]
(J-24)中の島は可能であれば撤去し、広い水面として水上スポーツの世界大会、全国大会が開催できるようにし、観光と結びつけて地域活性化を図る[島田]

(B-15)水辺に関わる産業としての舟倉や造船所があることが記憶として残るように[有光]
(B-16)朝酌地区に「古代の市場」の案内機能が必要[有光]
(C-14)下流部にヨシ・アシなどをもっと増やせば、生物の生息場所の確保や水質浄化、さらには環境教育にも役立つと思う[門脇]
(D-34)意宇川や茶臼山などの古代景観のすばらしさをもっと認識すべき[桑子]
(D-35)風土記に思いを馳せる景観の保持[飯野]
(D-36)矢田の渡し、出雲風土記[景観専門委員会]
(D-37)矢田の渡し周辺は風土記に描かれた景観を意識して整備し、渡し船を観光船に利用してはどうか[布野]



※この位置図は、中～下流部に関して出された意見を場所別に取りまとめたものです。沿川全体に関する意見については、P1～P3をご覧ください。